（別紙4）　　令和　3　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団　明星会		
事業所名	グループホーム明星		
所在地	加茂郡富加町夕田373番地		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	令和3年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171300573-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	令和3年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

令和4年1月には21年目を迎える事となりますが、年々認知症の重度化が進んでおり、グループホームとしてのあり方・役割が変わってきているように思いますが、認知症であってもご自分でできない事が多くてもできるだけその人が望む生活が送れるようにご家族と相談しながら日々努力して支援に努めております。町内在住の方が殆んどのため、昔馴染んだ事（切り干し大根作り、紫蘇の葉ちぎり、干し柿作り等）を取り入れたり、おはぎ、ぼたもち、ほうば寿司等季節感を感じさせる食べ物を提供し、皆さんが生き生きと暮らして頂けるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、感染防止に向けた取り組みを徹底させ、職員は勤務外であっても、ウイルスを持ち込まない為に、日常生活や外出をする際の行動に細心の注意を払い、感染予防と利用者支援に努めている。定期的にPCR検査も受けている。ホームは自然豊かな環境の中にあり、母体法人の介護老人保健施設に隣接している。地域住民との交流は自粛しているが、近くの公園を散歩するなど、利用者の気分転換を図っている。食事は、職員が旬の食材を活用しながら、手作りして提供している。高齢化や重度化で利用者の出来ることが限られてきているが、職員同士で情報共有をし、その人らしい暮らしを支援している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議において皆で理念を復唱し理解に努めている。又日常生活においても理念が活かされているか確認している。	理念は廊下に掲示してあり、誰もが目にすることができる。コロナ禍の今、理念の一つである「地域、家族の結びつきを大切に・・・」が、難しい状況ではあるが、全職員で「その人らしさを大切に」「安心と喜び、やさしさ、ぬくもりを大切に」の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月推進会議の案内状やグループホームでの暮らしぶりの様子を収め写真を届けたり、新型コロナウイルス感染予防のために直接触れ合う事はできないが、地域の方がお花や手作りの物を届けて下さるなど交流はできている。	現在、これまで行われていた地域の行事や住民との交流は中止しているが、季節の鉢植えが花の生産者から届いたり、利用者に手作り防寒着が届くなど、地域住民とのつながりは継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のために地域へ出向く事はできていないが、運営推進会議等で認知症の理解や支援の方法を発表する等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの取り組みや時には困っている利用者の支援の方法について検討したり、逆に参加者様よりの家庭で介護上困っている事等皆で意見を出し合う等サービス向上に活かしている。	昨年度は、新型コロナ感染拡大状況を見ながら、2回開催しているが、今年度は役場と相談をし、開催を見合わせている。役場からは書面会議の要請はなく、今後も会議開催については役場と相談しながら決めていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当の方とは常に連絡をとり、時には出向いたり、メール等のやりとりを行い良い関係が保てている。	運営推進会議が中止となり、行政担当者と顔を合わせる機会はないが、新型コロナ最新情報や介護保険改定の資料等はメールで配信されている。適切に情報を確認し、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止」の委員会を設けて毎月全利用者について「身体拘束具体的行為」をチェックし、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。又研修を行う事で身体拘束について正しく理解するように努めている。玄関施錠はどうしてもという場合は施錠を行う旨の張り紙をして行うようにしている。	身体拘束廃止に関する指針を整備し、拘束禁止の対象となる具体的な行為の例と、利用者個々の現状を確認している。拘束の廃止に向けた各利用者の詳細なチェックシートがあり、経過記録もある。職員間で利用者の情報を共有し、転倒リスクのある利用者の場合は、行動を予測し事故防止に努めてる。	身体拘束廃止委員会で、毎月チェック作業を行ない、運営推進会議で報告を行っている。3か月に1回以上の委員会開催議事録の整備及び職員研修の記録等を整え、行政への報告等に備えられたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会を行い、虐待についての理解・防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に付いては勉強会などで理解に努めていいるが、今までは成年後見人制度を必要とされる利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に付いては入居前に十分に説明し、理解・納得して入居して頂くようにしている。入居問題が発生した場合はその都度話し合いを行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防の為に面会もなかなかできなく、ご家族の訪問もままならない為メールや電話のやりとりで意見・希望を聞き入れ運営に反映させている。	現在、家族と利用者の面会は、短時間ではあるが、玄関先で互いに元気な様子を確認し合えるよう対応し、その時に意見や希望等を聞いている。毎月の便りでは、利用者個々の暮らしぶりを詳細に報告しており、家族から「生活の様子が分かり安心」との声が届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が働きやすい明るいチームワーク作りに努め各自が意見を発しやすい職場環境作りに努めている。	管理者は現場の業務も兼ねており、常に職員の意見や気づき等を本部に伝えている。人手不足で休暇を取りづらく、法人会議も出席者を減らしている。新型コロナ感染防止対策に基づき、職員には勤務外の行動も出来る限り控えるよう徹底させ、各人で遵守している。	利用者の高齢化と重度化が進む中で、徹底したコロナ対策と利用者の対応で、職員が心身共に疲弊している状況を、管理者が本部に報告し対策を検討している。職員のモチベーション低下による離職者が出ないよう、法人組織の課題として取り組まれることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心をもって働ける環境作りに勤めている。利用者の重度化・高齢化が進む中皆が同じ思いで努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染拡大により外部の研修はひかえ、法人内での勉強会に参加して皆がスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の同業者とはほとんど交流をする機会はないが、岐阜県グループホーム協議会を通してのメール等での交流は持ち情報を得ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が困っていること、不安・要望を訴えられる時は納得いくまで話を聞き、家族に相談したりなどし可能な限り希望を聞き入れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何が一番困っているか・不安な事等聞きいれ、今までの実践を基に話し合いあながら信頼関係を築くようにしている。何か問題が生じた場合は納得いくまで話し合いを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・担当ケアマネ・包括支援センター等の関係機関から情報を頂き、どのような支援が必要か見極めるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員、又利用者が別の利用者を支えるような良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大においては、とても難し事である。まずは面会が出来ない為テレビ電話や窓越しで顔を見たりする事が多く、家族との絆は大切であるにも関わらず家族と利用者を共に支え合う事はできない事が多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大においては、馴染みの人や馴染みの場所に行く事はできなく、馴染みの人との関係は途切れがちになってしまうが、それでも時々直接顔を見て話はできなくても遠くから顔を見たり、手紙で交流を持つなどされている。	事業所は、新型コロナ感染防止対策を徹底しており、馴染みの人も訪問を控えている状況である。利用者が馴染みの場所へ行くこともできないが、地元在住の職員が利用者に地域の情報を伝えながら、共に収束後の楽しみとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性・生活歴等を知ることで良い関係ができている。利用者が別の利用者の話を聞き相談にのるような場面もみられる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今までの関係を大切にし、電話での相談・メールでのやり取りなど行っている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接により生活歴や馴染みの暮らしぶりを把握し、日々の生活に取り入れている。重度化により自分の思いを発する事が出来ない方の場合は、職員・ご家族と検討しより良い支援へと繋げるように努力している	利用者の思いや意向を把握しても、コロナ禍の今は、家族や知人と自由に会うことも制限されており、実現が難しい。職員は利用者の気持ちを汲みながら、日々の暮らしの中で、今、出来ることを職員で話し合い、利用者一人ひとりが役割を持って暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握したうえで、できるだけ今までの馴染みの暮らしができ、その人にあった支援ができるように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態によりそれぞれに一日の過ごし方が違ってくる。近年は重度化により居室のベッドで休んで頂く方が増えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族・職員により意見を出し合い利用者・ご家族が望む生活が出来るように定期的にモニタリング・介護計画の見直しを行い、より良い暮らしが出来るように介護計画を作成している。	介護計画は、家族の意向を玄関先での面会時に聞いたり、電話で確認している。毎月、詳細な通信で利用者の様子を伝えており、家族とはスムーズに意見交換ができ、計画に反映させている。定期的なモニタリングと日々の気づきの記録を計画見直し時に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で利用者の思いや願いを引き出す気づきを養い、ふとした言葉にご本人の思いが込められている事を理解し、それを記録し、皆で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多様化はできない事が多いが、その時その時に生じる問題において、必要とされる事はできる限り支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大においては、ボランティアさん等の受け入れもお断りしていたり、地域資源はあまり活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームに入居されてもそれまでのかかりつけ医を継続して受診して頂くようにしており、ご家族の事情でかかりつけ医に受診できない場合は職員が受診同行し適切な医療が受けれるように支援している。	利用者は、入居前のかかりつけ医を継続し、家族が受診同行をしている。法人の診療所や近隣の医院を主治医に選択する人もある。いつでも、法人の併設診療所医師や看護師に相談したり、助言を受けることができ、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人併設の診療所医師・看護師に相談助言ををもらう事で早期の処置・対応が出来、悪化を防ぐ事ができるなど健康管理が適切にできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	以前と違い、新型コロナウイルス感染予防のために病院お見舞いに行く事はできない為ご家族より病院に様子を伺ってもらい情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期に付いては説明納得して頂いている。又終末期においてその都度状況に合わせてご家族と相談しながら支援をおこなっている。	入居時に、終末期支援は行わない事を説明し、家族の同意を得ている。要介護3の認定を受けた利用者の家族には、特養等への入所申込みを勧めている。1年近く夜間に不穏となり、朝まで一睡もしない人や、寝たきり状態の利用者も受け入れ、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法について勉強会に参加したり、急変発生時にその都度説明を行い勉強を重ねる事で、実践力を見に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体の老健施設との合同で避難訓練を行っているが、夜間の避難訓練ができていない事や、近隣地域との協力体制もできていないといえる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症重度にて意思疎通が困難な方が多いが一人ひとりが大切な家族と思い尊重し、その人にあった声かけをし、プライドを傷つけないように気を付けている。	常に利用者の自尊心や誇りを損ねない言葉遣い、対応を心掛けている。利用者の中には認知症が進行し、意思疎通ができない事も多い。職員も人手不足とストレスで声を荒げてしまう事もあったが、職員間で注意し合い、利用者に寄り添う姿勢に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症重度にて自己表現・自己解決が出来ない方が多いが、常に寄り添い生活を共にしその人の思いをくみ取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度により職員の都合を優先する事が多いが、その人にとって一番良い暮らし方をご家族と相談しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	黒色の服やズボンしか着ない方やお気に入り服を重ねて着られる方等色々だが、その人の好みを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や献立を取り入れ季節感を感じて楽しく食事が出来るように工夫している。食事の準備として芋の皮むきや野菜を切ったり等利用者と一緒に行っている	職員が季節の食材を活用しながら手作りし、一緒に食している。食事介助が必要な利用者は、少し早めに食べ始めるが、利用者がきちんと食事を摂れるよう時間をかけて支援している。また、車椅子利用者も椅子に移乗して食卓についている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	重度化により食事介助を必要とする方が増えてきているが、その人に合った食事量・食事形態、水分量等を確保し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり有する能力に応じて毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し早めにトイレに行くことで失敗を減らす支援をしている。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握し、日中は利用者全員、トイレでの排泄が習慣となっている。夜間のみ、ポータブルトイレを利用している人もある。排泄用品は個々の状態に合ったものを使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	重度化により自力排便が出来なく薬服用な方が増えているが、できるだけその人に応じた運動や水分量の調整等はおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化により一般浴が出来なく機械浴をされる方が増えてきている。入浴は職員の都合で決める事が多いが、熱いのが好き等好みを言える方には早く入浴して頂く等希望を取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢・体調・習慣等に合わせて日中休んで頂いている。又夜間はその人の習慣により照明・室温の調節を行い夜間安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自服用の薬の種類については把握している。薬の変更が有る場合はその都度申し送り・記録して皆が薬の支援と状態の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化・重度化により生活力を活かした役割は困難になりつつあるが、その中でも昔馴染んだ事（干し柿作り、切干大根作り、栗きんとん作り等）を取り入れながら楽しみのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のために外出はほとんどできていない状態である。月に一度だけ町内へお手紙配りのドライブに行くのみである。	外出の自粛が続いているが、利用者の様子を見ながら、近くの公園まで散歩をしている。職員は、外出支援に代わる気分転換ができるよう、室内でのボール遊びやパズルなど、運動や脳トレを利用者が楽しみながらできるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難な為利用者はお金をもってみえない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染予防のために面会がなかなかできないが、電話や手紙・はがきでやりとりされる方はみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子や歩行器を使用される方がおられ、安全に移動できるように余分な物は置かないようにしている。又リビングの広い窓から桜の花・柿・鳥等を見る事ができ季節を感じる事ができて良い。	開設から20年、改修が必要な箇所は本部へ申請している。陽射しが十分に入る明るいリビングは、整理整頓されており、利用者数人が、ソファーに座っておしゃべりをしながら、豆の選別や栗の処理をするなど、憩の場となっている。外の景色が見渡せる大きな窓から、季節を感じることも出来る。定期的に窓を開け、自然換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの方がリビングで馴染みの関係になられた方同士が並んで座られて自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご主人の遺影や家族の写真を飾られたり、ソファー等を置きその人らしい部屋作りをされている。	居室は、廊下を挟んで左右にあり、職員は利用者の出入りを常に確認できる。居室内も、車椅子や歩行器等で安全に使用できる広さがあり、馴染みの家具を置き、写真を飾り、利用者が安心・安全に過ごせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度化により車椅子や歩行器等を使われる方が増えてきている為、できるだけ空間を広く保ち安全に生活できるように支援している。		